おおふな

２０２５年１１月２７日 No.32
発行者：森田隼士　編　集：情宣部

**ＪＲ東労組
大船支部**

柏崎刈羽原発、再稼働へ

１１月２１日、新潟県柏崎刈羽原発について、花角知事は再稼働を容認する意向を表明しました。今後は知事の容認判断を新潟県議会が１２月２日から開会する定例会で信任する方向で、１１月２５日には新潟県議会の過半数を占める最大会派の自民党が信任することを決めました。再稼働に必要な地元同意の一連の手続きは２０２５年内にも完了する見通しになっています。

原発事故賠償金、廃炉費用、燃料費の高騰・・・
厳しい経営環境を改善するため、原発を再稼働

原発を再稼働させる大きな理由の一つが東京電力の厳しい経営状況です。福島第一原発事故による被災者への賠償金や廃炉にかかる費用等で巨額の負担を抱えています。加えて原発事故以降、火力発電を主力にしてきたものの、燃料費の高騰で経営を圧迫。電力自由化により顧客獲得競争も激化してきています。こうした中で原発一基が稼働すれば、年間１，０００億円の収支改善効果があるとされています。

事故が起きた時、豪雪のなか本当に避難できる？？

柏崎市では2022年12月、大雪で国道がふさがれ、大規模な立ち往生が発生。約800台の車が動けず、解消まで38時間を要した。

柏崎刈羽原発で相次ぐ不適切事象

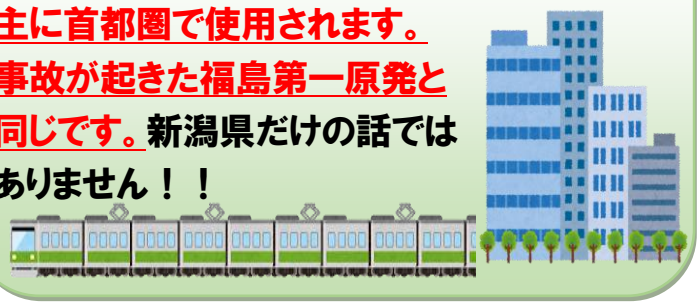
2020年9月　IDカード不正使用
2021年　核物質防護設備機能一部喪失
2021年1月　7号機の安全対策工事一部未完了
2025年11月　テロ対策秘密文書の管理不備
※2021年～2023年に原子力規制委員会より事実上の運転禁止命令を受ける。

原発は「トイレなきマンション」

原発稼働によって生み出される「核のゴミ」の最終処分場は決まっていません。2024年9月時点で国内に貯蔵されている使用済燃料は※16,770トンで、既に国内で貯蔵できる容量の75％以上を占めています。※日本原子力文化財団HPより

発電された電気は・・・

主に首都圏で使用されます。事故が起きた福島第一原発と同じです。新潟県だけの話ではありません！！



悲惨な原発事故を繰り返してはならない！！
核なき社会の実現に向けて、声をあげよう！！